

◎ボランティアって自分のためにするんだよね。心に灯りをともらいたい◎

夏の昼過ぎの電話で、蛍光灯の付け替えのご依頼を受けました。蛍光灯は予備があるので購入不要とのこと。だいぶ暗くなっていましたが、仕事の帰りに、ご依頼者様のお宅を訪ねました。

用意してあった蛍光灯は、残念ながら短いものでした。私はすぐに切れた蛍光灯を掴んで、買い物に出かけましたが、ご近所の電気屋さんには閉店しており、以前あった店もなくなっており、少し遠くまで出かけ、戻るとすっかり夜でした。途中で電話を入れたのですが、ご依頼者様も心配して、外まで出てこられていました。薄暗い中、ご依頼者様が心配して踏み台を押しえてくださり、天井に取り付けを無事完了。「あっ点いた！」



ともった灯りの明るさ、ありがたさ。思わず手を取り合い、拝みたいとはこのことでしょうか。心も灯りがともり、温かい気持ちになりました。「すまないね。ありがたいねえ。安心して夜が過ごせるよ。」心から感謝していただきましたが、感謝したいのは私のほうでした。「順番送りですから。私が高齢になった時もこうやって誰かが手伝ってくれるといいな。」

そんな文化や地域を気長に創ること、これが私たちボランティアにできることかなと思っています。ボランティアをご依頼いただけること、私は嬉しく思っています。